

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 5 月調査結果 - -

(平成 1 7 年 6 月 1 日)

調査期間：平成 1 7 年 5 月 1 9 日～ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 7 9 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 8 製造業 6 2 4 卸売業 2 3 2
小売業 7 3 8 サービス業 6 0 7

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成17年5月調査結果のポイント】

業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小するも、依然低水準

5月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 35.3 ）よりマイナス幅が4.4ポイント縮小して 30.9となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

業種別の業況D Iは、全ての業種でマイナス幅が縮小した。業況は好調との声は引き続き多いものの、依然として公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「市町村合併に伴う公共工事の受注増に期待している」（一般工事）「新年度に入り、公共工事の発注があったため、多少明るさが見えてきた」（建築工事）との声がある一方、「受注が少なく、人員整理が続いている」（建築工事）「依然として公共工事の発注件数は減少しており、民間企業の設備投資も低調である」（建築工事）「燃料、鉄筋、生コン等の仕入単価が上昇している」（一般工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「原材料価格の上昇に伴い販売価格を引き上げたため、売上高は少し増加した」（非鉄素形材製造）「中国需要が好調で、売上が伸びている」（工業用ゴム製品製造）「全体的に受注は堅調に推移している」（自動車・付属品製造）との声がある一方、「鋼材価格の高騰を販売価格に転嫁できず、採算が悪化している」（金属加工機械製造）、「中国から輸入している燃料が一段と値上がりしているうえ、品薄で品質も低下している」（耐火物製造）といった声が寄せられている。

【卸売業】では、「野菜・果物とも出荷量が安定しており、価格もほぼ例年並に推移している」（農畜産水産物卸売）との声がある一方、「コストの削減以上に売上・利益の減少が大きい状況から抜け出せない」（農畜産水産物卸売）、「消費の低迷に加え、低温続きで衣料品をはじめとした季節商品の動きが悪い」（各種商品卸売）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「ゴールデンウィークは曜日の並びが良く、客数、売上共に好調に推移した」（商店街）「母の日関連ギフトとして、婦人雑貨やジュエリー、花が好調」（百貨店）「食料品・日用品等が堅調」（百貨店）との声がある一方、「大型店の出店が活発化しており、売上は微減傾向が続いている」（商店街）「低い水準で横ばい状況が続いており、今後の見通しが難しい」（商店街）といった声が寄せられている。

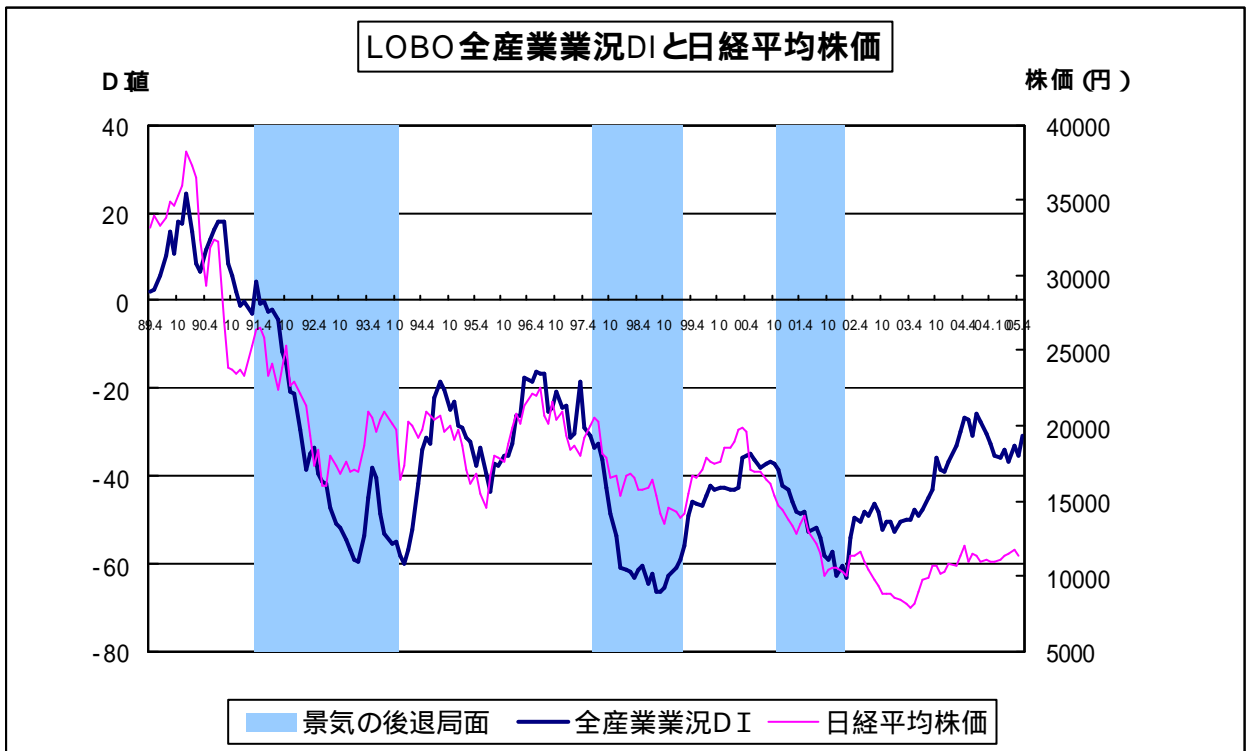
【サービス業】では、「ゴールデンウィーク中は客の出足がとても良く、売上が増加した」（食堂・レストラン）、「活気のある店も出てきており、全体としては多少良い方向に向かっている」（旅館）との声がある一方、「ガソリン、タイヤ、バッテリー等の高騰や、整備料金の値下げ競争などから、採算は厳しい」（自動車整備）「ゴールデンウィークの売上も期待していたほどではなかった」（そば・うどん店）「荷動きの低迷に加えて、燃料である軽油が1リットル3～4円の値上げ傾向であり、採算が悪化している」（運送業）といった声が寄せられている。

売上面では、DI値のマイナス幅は製造で若干拡大したが、卸売で横ばい、建設、小売、サービスで縮小したため、全産業合計の売上DIは1.9ポイント縮小して28.6となり、2カ月ぶりに縮小した。

採算面では、DI値のマイナス幅はサービスを除く4業種で縮小したため、全産業合計の採算DIは2.5ポイント縮小して30.8となり、2カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が28.8と、昨年同時期の先行き見通し(22.8)に比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、引き続き業況は好調との声があるものの、公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感を訴える声が寄せられている。



【業況についての判断】

5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 35.3 ）よりマイナス幅が4.4ポイント縮小して 30.9となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

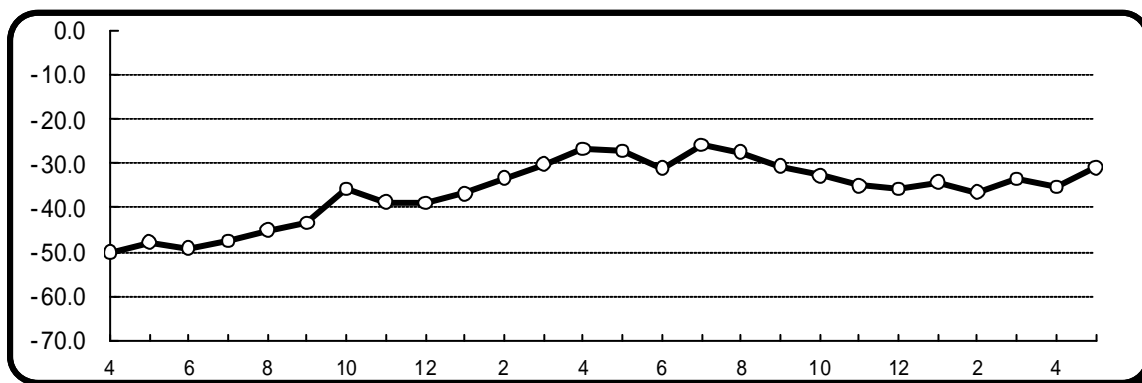
向こう3カ月（6月～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が 28.8と、昨年同時期の先行き見通し（ 22.8 ）に比べて悪化している。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 12月	17年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	35.9	34.2	36.5	33.4	35.3	30.9	28.8 (22.8)
建設	47.3	48.2	47.2	42.9	46.0	42.2	39.9 (43.6)
製造	20.2	21.8	23.4	24.0	24.6	23.8	23.3 (11.5)
卸売	35.6	34.7	43.8	36.1	39.6	37.7	26.3 (18.2)
小売	46.3	37.2	40.5	34.0	37.8	31.0	29.5 (25.7)
サービス	33.1	34.8	36.0	35.5	35.1	28.7	27.4 (19.5)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年3月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

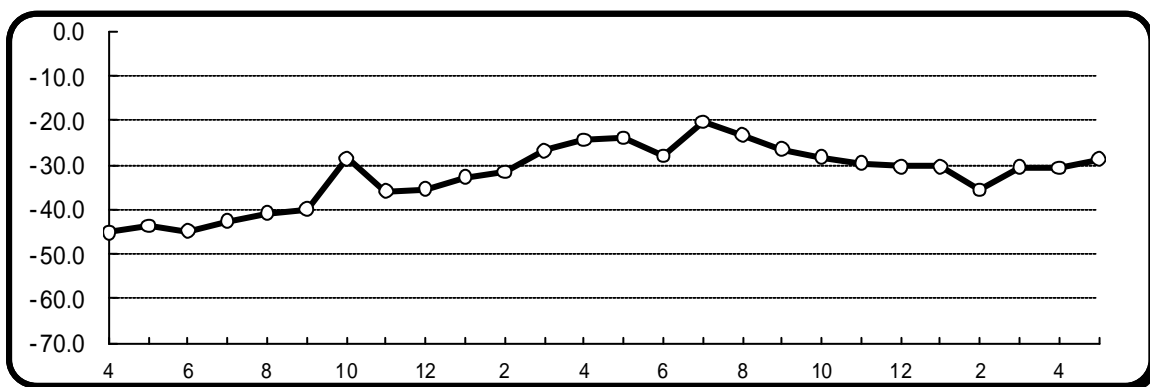
売上面では、D I値のマイナス幅は製造で若干拡大したが、卸売で横ばい、建設、小売、サービスで縮小したため、全産業合計の売上D Iは1.9ポイント縮小して28.6となり、2カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が23.7と、昨年同時期の先行き見通し(20.1)に比べて悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 12月	17年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	30.3	30.3	35.5	30.4	30.5	28.6	23.7 (20.1)
建設	44.5	44.4	48.5	40.0	39.8	39.6	37.7 (38.9)
製造	11.1	12.6	20.3	10.0	13.2	13.7	12.4 (9.7)
卸売	21.3	31.7	45.0	36.7	38.4	38.4	29.3 (19.5)
小売	44.8	39.1	41.0	39.5	37.5	30.4	26.0 (20.3)
サービス	27.7	29.2	32.9	32.0	31.7	31.5	22.0 (19.0)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

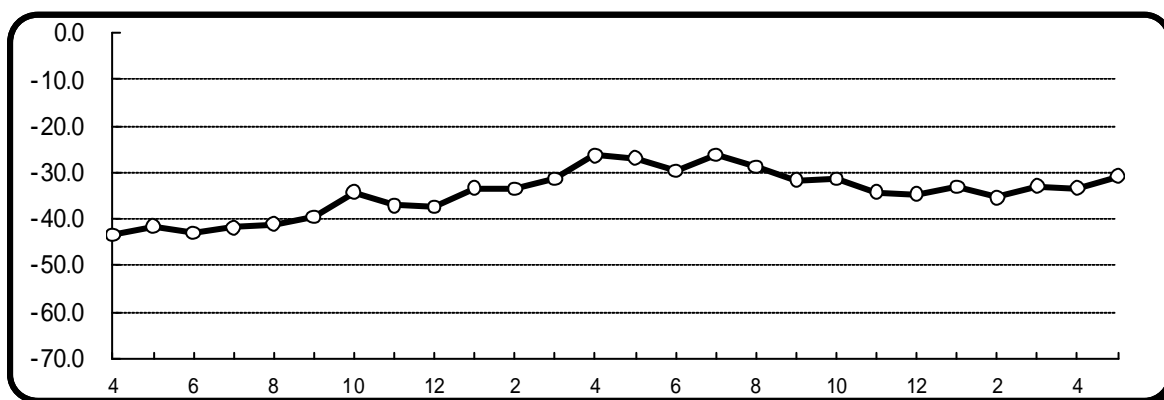
採算面では、D I 値のマイナス幅はサービスを除く4業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は2.5ポイント縮小して30.8となり、2カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が26.2と、昨年同時期の先行き見通し(21.8)に比べて悪化している。

採算D I (前年同月比)の推移

	16年 12月	17年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	34.7	33.2	35.4	32.9	33.3	30.8	26.2 (21.8)
建設	47.4	49.1	52.0	49.5	50.0	44.4	41.0 (43.6)
製造	27.5	25.9	29.4	24.7	27.1	25.2	24.0 (16.2)
卸売	24.4	27.1	32.5	24.7	30.5	30.2	20.4 (16.4)
小売	42.3	34.7	32.4	31.8	32.4	27.7	19.7 (18.8)
サービス	29.0	31.4	35.5	35.0	31.7	32.0	28.9 (19.0)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 12月	17年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	24.0	24.2	24.5	25.0	23.6	21.8	19.8 (19.4)
建設	38.8	41.5	40.0	39.4	39.7	39.2	37.2 (38.4)
製造	20.7	20.9	18.5	19.7	20.0	16.8	15.5 (13.4)
卸売	18.5	17.8	23.5	21.3	19.9	17.7	12.4 (19.4)
小売	22.0	19.0	21.7	23.3	19.7	18.4	17.7 (14.1)
サービス	21.3	23.8	23.5	23.6	22.4	20.3	18.1 (19.7)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全ての業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも2ヶ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】建設、卸売、サービスで昨年同時期に比べ悪化超感が弱まったものの、他の2業種では強まり、全産業合計でも若干強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 12月	17年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	19.9	19.1	16.9	16.6	19.3	19.6	15.4 (12.8)
建設	25.4	24.0	21.0	25.3	26.4	32.0	23.0 (23.5)
製造	33.9	38.4	32.6	35.8	36.9	34.6	27.0 (22.6)
卸売	22.6	17.4	12.6	12.7	14.6	19.0	16.7 (6.9)
小売	6.7	3.6	5.3	1.0	5.6	5.9	5.9 (1.8)
サービス	15.6	13.9	13.1	10.8	14.2	12.5	9.2 (10.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造、サービスで上昇超感が弱まったものの、他の3業種で強まったため、全産業合計でも2か月連続で強まる。

【先行き見通しD I】建設、サービスで昨年同時期に比べ上昇超感が弱まったものの、他の3業種で強まったため、全産業合計でも強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	16年 12月	17年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	6.9	6.6	6.7	6.6	6.8	5.0	4.5 (8.5)
建設	23.8	23.9	26.2	23.0	22.9	23.1	19.7 (25.2)
製造	6.0	5.0	7.3	7.7	8.3	5.3	4.8 (6.9)
卸売	9.4	6.6	8.1	8.2	9.8	8.8	6.0 (8.5)
小売	3.1	1.2	0.6	1.4	0.6	2.2	0.4 (5.2)
サービス	0.0	3.4	1.0	3.3	2.5	0.2	0.8 (2.6)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】建設を除く4業種で過剰超感が弱まったため、全産業合計でも2カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】全ての業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年5月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「公共工事頼りの建設業は厳しい環境が続いている」(甲府・一般工事)「工賃単価は相変わらず低く、仕事量に反して利益は薄い」(尾道・船舶製造修理)「依然として業況は厳しい状況が続いており、従業員も過剰状態である」(赤穂・金属加工機械)との指摘が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「低温続きで衣料品をはじめとした季節商品の動きが悪い」(帯広・各種商品卸売)「ゴールデンウィークの影響で、荷動きが悪化している」(浦安・鉱物金属材料卸売)「近隣に大型ショッピングセンターが開店して以来、売上が下降気味である」(直方・その他の小売業)「「愛・地球博」やセントレアなど、新しい施設が注目されており、来客数が減少している」(一宮・百貨店)「ゴールデンウィークが終わってから客の動きが悪くなっている」(高松・理容業)といった声が寄せられている。また、「鋼材・ガラスの価格が上昇傾向」(高知・建築工事)「原油高に伴い、包装資材をはじめとする副資材の仕入価格が高騰しているが、製品価格に転嫁できない」(会津喜多方・食料品製造)「軽油価格が大幅な上昇を続けているものの、運賃に転嫁できていない」(川口・運送業)と、引き続き原油をはじめとした仕入コストの上昇を訴えるコメントも多く寄せられている。

回復への動き

一方で、各業種から、業況は好調との声が寄せられており、「公共事業の発注期に入り、受注機会が増加している」(岩見沢・建築工事)「下請けや増改築が動き出した」(魚津・建築工事)「災害関連工事の受注が多い」(西条・土木工事)「需要は増加傾向にあり、業況は好転」(名古屋・工業用ゴム製品製造)「デジタル家電の需要が増加傾向」(新井・電子部品製造)「在庫調整は進んでおり、業況は若干上向き」(小千谷・電気機器製造業)「野菜・果物とも出荷量が安定しており、価格もほぼ例年並に推移している」(倉敷・農畜産水産物卸売)といった声が寄せられている。また、「化粧品やハンドバック等の服飾雑貨が好調」(水戸・百貨店)「ゴールデンウィークは天候にも恵まれ、入店客数・売上ともに大きく伸びた」(静岡・百貨店)との声や、「ボーナス支給額が前年比増との見通しがでており、消費全体が底上げされることを期待している」(京都・百貨店)「「愛・地球博」の影響もあり、宿泊部門が好調」(名古屋・旅館)と、業況の回復や先行きに期待する声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
17年	3月	悪化への懸念	回復への動き	
	4月	悪化への懸念	回復への動き	
	5月	悪化への懸念	回復への動き	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況・採算D Iは2カ月ぶり、売上D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小した。「市町村合併に伴う公共工事の受注増に期待している」(一般工事)「新年度に入り、公共工事の発注があったため、多少明るさが見えてきた」(建築工事)「医療関係を中心に、改修工事・新築工事が好調」(一般工事)との声がある一方、「受注が少なく、人員整理が続いている」(建築工事)「依然として公共工事の発注件数は減少しており、民間企業の設備投資も低調である」(建築工事)「燃料、鉄筋、生コン等の仕入単価が上昇している」(一般工事)「同業者間の受注競争は激しくなっている」(管工事)といった声が寄せられている。</p>
製 造	<p>業況D Iは6ヶ月ぶり、採算D Iは2カ月にマイナス幅が縮小し、売上D Iは2カ月連続で拡大した。「原材料価格の上昇に伴い販売価格を引き上げたため、売上高は少し増加した」(非鉄素形材製造)「中国需要が好調で、売上が伸びている」(工業用ゴム製品製造)「全体的に受注は堅調に推移している」(自動車・付属品製造)との声がある一方、「鋼材価格の高騰を販売価格に転嫁できず、採算が悪化している」(金属加工機械製造)、「中国から輸入している燃料が一段と値上がりしているうえ、品薄で品質も低下している」(耐火物製造)「仕事量は減少気味で、先行きに不透明感がでてきている」(金属加工機械製造)といった声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況、採算D Iは2カ月にマイナス幅が縮小、売上D Iは横ばいとなった。「野菜・果物とも出荷量が安定しており、価格もほぼ例年並に推移している」(農畜産水産物卸売)「業況改善とまではいかないが、最悪の状態から多少なりとも落ち着きを取り戻した」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「コストの削減以上に売上・利益の減少が大きい状況から抜け出せない」(農畜産水産物卸売)、「消費の低迷に加え、低温続きで衣料品をはじめとした季節商品の動きが悪い」(各種商品卸売)といった声が寄せられている。</p>
小 売	<p>業況、採算D Iは2カ月にマイナス幅が縮小した。「ゴールデンウィークは曜日の並びが良く、客数、売上共に好調に推移した」(商店街)「母の日関連ギフトとして、婦人雑貨やジュエリー、花が好調」(百貨店)「食料品・日用品等が堅調」(百貨店)「年配者向け商品が好調」(その他の小売)との声がある一方、「大型店の出店が活発化しており、売上は微減傾向が続いている」(商店街)「低い水準で横ばい状況が続いており、今後の見通しが難しい」(商店街)「5月は農家の繁忙期にあたるため、商店街は閑散としている」(商店街)といった声が寄せられている。</p>
サービス	<p>業況、売上D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小、採算D Iは3カ月に拡大した。「ゴールデンウィーク中は客の出足がとても良く、売上が増加した」(食堂・レストラン)、「活気のある店も出てきており、全体としては多少良い方向に向かっている」(旅館)との声がある一方、「ガソリン、タイヤ、バッテリー等の値上げや、整備料金の値下げ競争などから、採算は厳しい」(自動車整備)「ゴールデンウィークの売上も期待していたほどではなかった」(そば・うどん店)「荷動きの低迷に加えて、燃料である軽油が1リットル3～4円の値上げ傾向であり、採算が悪化している」(運送業)「ビールや卵、鶏肉の値上がりを価格に反映できていない」(一般飲食店)といった声が寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、中国でマイナス幅が拡大したが、他の7ブロックで縮小したため、全ブロック合計でも2カ月ぶりに縮小した。

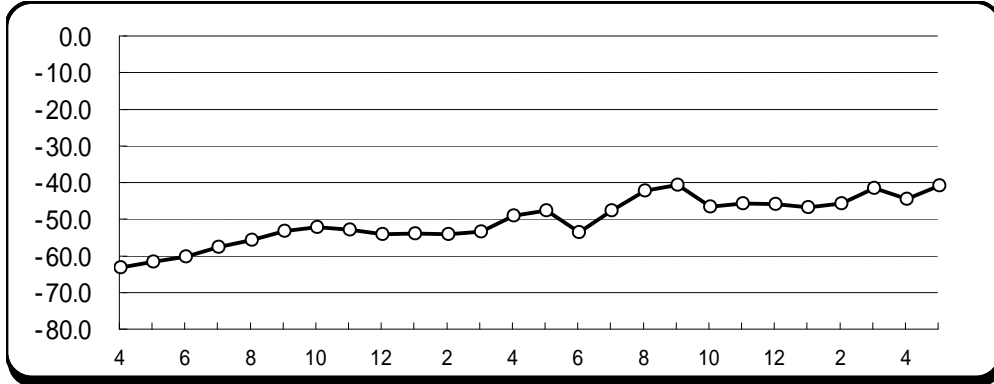
ブロック別の向こう3カ月(6月~8月)の業況の先行き見通しは、北海道、北陸信越、東海で昨年同時期と比べて改善したが、他の6ブロックで悪化したため、全ブロック合計でも悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

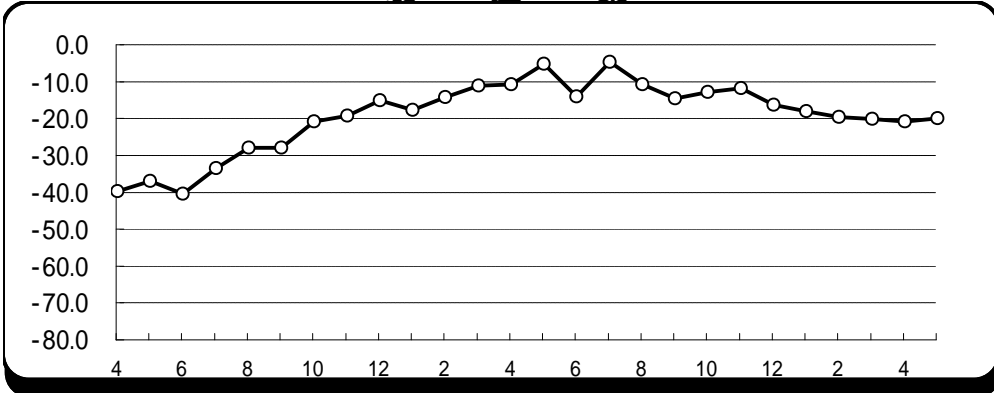
	16年 12月	17年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全 国	35.9	34.2	36.5	33.4	35.3	30.9	28.8 (22.8)
北海道	39.7	37.1	30.8	27.9	35.7	36.4	24.5 (26.2)
東 北	50.3	44.0	40.8	38.3	42.9	37.7	35.1 (26.6)
北陸信越	34.3	26.1	35.9	39.5	28.2	27.6	24.7 (25.8)
関 東	30.0	30.7	32.4	29.4	36.0	32.8	25.9 (19.6)
東 海	27.3	29.0	25.1	25.9	29.7	20.1	22.3 (22.4)
近 畿	35.9	38.9	44.0	38.1	38.6	36.0	36.4 (25.4)
中 国	40.4	35.8	39.3	36.2	28.9	32.9	32.9 (22.0)
四 国	40.4	35.9	48.6	34.7	37.5	25.9	31.5 (25.5)
九 州	37.8	35.8	36.8	34.3	37.5	27.0	27.2 (18.3)

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

建設業



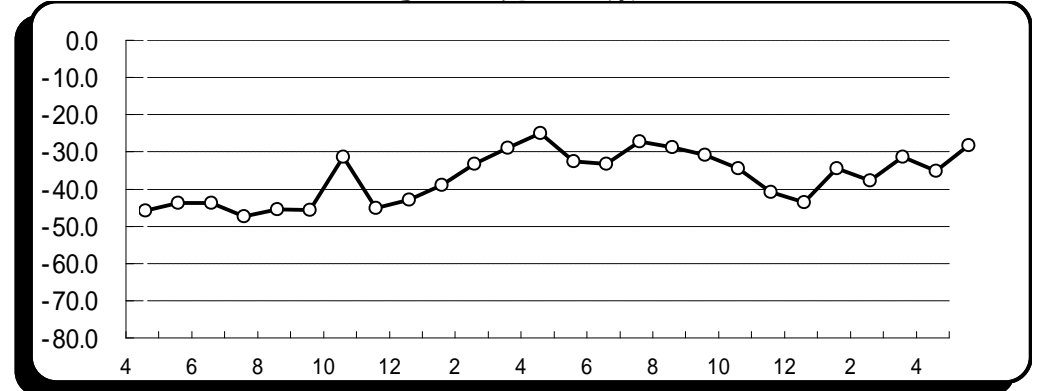
製造業



卸売業



小売業



サービス業

